



各地区の社会教育事業トピックス

せたな町の高齢者大学について

せたな町の各区では、生涯学習社会の構築が求められている現代において、高齢者が楽しく生きがいに満ちた生活の再構築と学びと交流の場として、各種講座を開催しております。

10月の活動内容について

●北檜山区 いきがい学園 「修学旅行」

10月4日（火）北檜山区の高齢者大学「いきがい学園」の修学旅行が実施されました。参加された学園生有志32名（88名中）の皆さんは、層雲峡の紅葉を満喫した後、旭山動物園、富良野などで見聞と交流を深めました。



●瀬棚区 寿大学 「秋の研修旅行」

10月27日（木）から10月29日（土）まで、老人クラブと合同で27名（うち寿大学生9名・随行2名）の皆さんが「秋の研修旅行」に参加されました。瀬棚区から、岩内、ニセコ経由で定山溪温泉へ宿泊、2日目は札幌市内を見学し同じ宿へ宿泊、3日目は朝里温泉経由で帰町しました。

●大成区 くおん大学 「異年齢交流による趣味講座」

10月27日（木）平田内小学校（児童12名）の総合的な学習プログラムにあわせて「異年齢交流による趣味講座」を実施しました。今金町の学芸員（寺崎・宮本両氏）を講師に向かえ、2時間かけて勾玉（まがたま）をつくりました。



「新しい時代の義務教育を創造する」と題した中央教育審議会（文部科学大臣の最高諮問機関）答申が公表されました。

義務教育の構造改革と焦点だった義務教育費国庫負担制度の維持を唱え、「教育を巡る様々な課題を克服し、国家戦略として世界最高水準の義務教育の実現に取り組むことは、我々の社会全体に課せられた次世代への責務である。」としています。

義務教育の構造改革の基本方向として、国が明確な戦略と目標を設定し、そのための財源など基盤整備を行い教育実施面では地方行政や学校の権限、責任を拡大し教育の結果に国が責任をもって検証するとなっています。

国家戦略として義務教育のあり方を考える、というのも結局は各学校のより良い教育の質を担保することに狙いがある。大事なことは教育の担い手である一人一人の教員であり、それを支える保護者や地域住民であります。

保護者の信頼感や児童生徒の満足感に支えられる学校創造であつてこそ、国家戦略としての義務教育は実を結ぶものであり、そのため教員や保護者・地域住民が協働性を生かせるような具体的支援施策がこれから一層地方行政にも課せられていると思います。

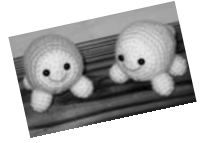
プ
リ
ズ
ム



せたな町民文化祭フォトコーナー

展示の部

芸術の秋、せたな町民文化祭が各区で開催されました！



北檜山会場

(町民ふれあいプラザ)

展示期間：11月5日(土)

～6日(日)

作品数：約800点

鑑賞者数：約650名



瀬棚会場

(せたな町B&G体育館)

展示期間：11月4日(金)

～6日(日)

作品数：約450点

鑑賞者数：約600名



大成会場

(大成町民センター)

展示期間：11月2日(水)

～4日(金)

作品数：約400点

鑑賞者数：約300名